



2025 年 6 月 19 日

各位

ENEOS Xplora 株式会社

**マレーシア SK10 鉱区プロジェクト 生産物分与契約の延長について**  
**～日本向け LNG の原料ガスを供給するガス田操業を引き続きオペレーターとして担います～**

当社（社長：忍田 泰彦）は、当社子会社の ENEOS Xplora マレーシア株式会社（社長：岡 真司。以下、「Xplora マレーシア」）を通じて操業主体（オペレーター<注>）を務めるマレーシア・サラワク州沖 SK10 鉱区において生産物分与契約（Production Sharing Contract。以下、「PSC」）を 2028 年から 2038 年の 10 年間延長することについて、マレーシア国営石油・ガス会社である Petroliaam Nasional Berhad（以下、「ペトロナス」）と合意し、契約を締結しましたので、お知らせいたします。

Xplora マレーシアは、オペレーターとしてパートナーの PETRONAS Carigali Sdn. Bhd.（以下、「PCSB」）と 1987 年マレーシア・サラワク州の沖合に位置する SK10 鉱区の権益を取得し、2003 年にヘランガス田での生産を開始しました。その後も同鉱区内において追加開発を継続し、2017 年にラヤン油ガス田、2018 年にベリルガス田での生産を開始するなど、着実に生産量を増加させてきました。

SK10 鉱区で生産した天然ガスはサラワク州の液化プラントに輸送され、日本をはじめとする東アジア諸国に LNG として輸出されています。その天然ガスの生産量は、日本の年間 LNG 総輸入量の約 4%に相当する規模で、東アジア域内のエネルギーの安定供給に大きく貢献しています。

今般の PSC 延長を受け、Xplora マレーシアは引き続き SK10 鉱区において、オペレーターとして開発、生産操業を担います。長年にわたり蓄積した知識と経験を活かして SK10 鉱区の価値最大化に継続して取り組み、日本を含む東アジア諸国へのエネルギーの安定供給に今後も貢献してまいります。

以 上

<注> 鉱区におけるプロジェクトの作業計画立案および探鉱・開発・生産を行う操業主体企業のこと

## ENEOS Xplora マレーシア株式会社の概要

- (1) 代 表 者      取締役社長 岡 真司
- (2) 所 在 地      東京都千代田区大手町一丁目 1 番 2 号 ENEOS ビル
- (3) 設 立 日      1987 年 10 月 14 日
- (4) 事業内容      マレーシアにおける石油・天然ガスその他鉱物資源の探鉱、開発および採取 他
- (5) 資 本 金      131 億円
- (6) 株主構成      当社 (78.7%)、株式会社 INPEX (15.0%)、三菱商事株式会社 (6.3%)



■ ガス田    — ガスパイプライン



SK10 鉱区の生産フィールド位置図と生産プラットフォーム



SK10 鉱区 PSC 延長式典の様子

(中央) Datuk Ir. Bacho Pilon (PETRONAS Senior Vice President Malaysia Petroleum Management)

(右) 小澤勝典 (ENEOS Xplora 執行役員 クアラルンプール事務所長)